

波に乗る 自然を愛する サーファーという「生き方」

プロサーファー 早稲田 暁生さん

青空「絆」プロジェクト



サーフィンの魅力

水の上を静かにサーフボードが滑り出し、波の上をターンしていく感覚。陽の光を反射するキラキラの青いバレルに包まれ、水と空気の織りなす神秘的な音の中、時が止まっているような感覚。一度その気持ち良さを味わったら、またやらずにはいられない。「サーフィンに出会ったら、人生の半分は成功」なんて名言もあるくらい。

サーフィンは、大人も子供も、男性も女性も、プロも初心者も、みんなが同じ海に集まる。時には波を奪いあい、そして時にゆずりあい、助け合い、同じ空間をシェアしあう。自然からだけでなく、人からも、海の社会からもたくさんの事を教えてもらえる、様々な面から学べ、成長させてくれる最高のスポーツ。



平塚で、プロサーファーとして

平塚には湘南で一番大きな河口を持つ相模川、そして花水（金目）川もある。実はこの河口ってのが、サーファーにとってはかなり上質の波を作り出すカギを握っている。それに、実は平塚の海岸は湘南の中でも特にウネリを受けやすい。だから、形のいい波、力のある波、いろんな条件の波がたちやすい。それに平塚のビーチパークにはシャワーやトイレ、売店もあるし、駐車場もある。花水にも駐車場、コンビニがあって便利。そういった便利さと波の良さは、実際多くのサーファーを平塚に惹きよせる。でも、プロになって日本中、世界中で色々な波に乗れる今となっては、僕にとって平塚の海のいいところは、そこにいる人達や、平塚の空気そのものですけどね。帰ってきたな～ってほっとさせてくれます。

僕は、誰よりも海に入って、練習する時間を作れるように心がけています。その中でも最も力をいれてることが、朝一番に海にいられるようにすること。でも、サーファーは結構みんな同じように狙っているから、いつも一番最初に海にいられるかっていったらそうでもない。それでも日の出前に海について、少しずつ明るくなってくる景色は一日を凄くいいものに変えられる力をくれる。先に海に入っていれば、気持ちの中でアドバンテージをとれるんです。怠けずに、頑張ってるんだって気持ちが、波の取り合いやポジション争い、色々なところに出てくる。それが結果的に効率的な練習になってくると思っています。

外で遊びたくても遊べない。そんな被災地の子供達に、青空と青い海を！今年8月20、21日に実施された青空「絆」プロジェクトでは、被災した子ども達と保護者をより安心できる地域へと招待し、すいか割り・波乗り・BBQ・花火・砂遊びなどの海辺での夏遊びを思い切り楽しんでもらった。プロサーファー早稲田暁生の呼びかけで、多くの人からの支援金を活用して開催されたこのプロジェクトには、賛同したサーファー、ブロガー、ライフセーバー、スポーツインストラクター、医療関係者達がスタッフとして集まり、子供たちに笑顔の夏休みをプレゼントした。



サーファーは、波に乗るだけではなく、自然と調和し、理解し、愛するひとつの生き方。海には話したことがあろうがなかろうが、多くの仲間がいて、そして海は繋がっているから、東北で起きていることも、原発で起きていることも、人ごとじゃない。同じ気持ちになって胸を痛めるサーファーが世界中に大勢いる。プロサーファーも同じで、コンテストに出たり、雑誌に出たりするだけじゃなく、もっともっと格好いいことができるはず！格好いいことがしたいはず！いずれはそういった格好つけてる職業の人達が集まって、格好いいこととしていきたい！って思っています。

青空「絆」プロジェクトの活動を、年に数回、5年10年と続けていきたいと思っています。全国のみんなの「何かしてあげたい」と思う心を少しずつ集め、被災地の方達に大きく、ダイレクトに届けられるよう、そしてたくさんのかげがえのない「笑顔」を生み出していけるようなプロジェクトになるよう、より多くの方に応援していただけたらと思っています。



プロサーファー
わせた あけお
早稲田 暁生さん

PROFILE

1983年湘南生まれ、平塚市在住。サーフィン歴12年。2009年バリ島で行われたプロトライアルでプロサーファーに転向。試合やフォトシューティングに積極的に参加し、今もっとも注目されている若手プロサーファーのひとり。最近では湘南、西湘を中心にサーフレッスンにも力を入れている。よく出没するスポットは（もちろん）海。
<http://ameblo.jp/kakousaikou/>

写真：U-SKE

写真家。湘南育ちのサーフィンフォトグラファー。平塚市在住。現在は日本各地、世界のサーフポイントを訪れるフォトジャーナリストとして活動中。 <http://www.u-ske.jp>